

カルチュラル・スタディーズ演習（前期・後期、火曜 2 限）

文化社会学演習（前期・後期、金曜 2 限）

担当教員：野村浩也

2026 年度の演習は、どちらも映画やドラマ等の映像作品の社会学的分析を目標とします。他の対象と異なり、映画やドラマの分析には、第一に時間がかかります。そのため、前期後期ともに一年間を通して履修することが望ましいです。また、特別な社会学的技術や理論的能力の修得も必要となります。ですから、最初は、映像分析に関する社会学の基礎的な文献を読むことになります。その後、実際に映像を見た上で、学生ひとりひとりの発表を通じて映像分析に関する議論と知識を深め、社会学的な能力の向上を目指したいと考えます。

社会学的技術や理論的能力を高めるために、特に 3 年生以上は、講義科目の文化社会学（前期）とカルチュラル・スタディーズ（後期）を併せて履修するか既修であることを希望します。これは 4 年生からの卒業研究にも大いに活用できるはずです。また、具体的な分析対象としては、2026 年度は沖縄を題材にした映像作品を選択したいと考えていますが、他の希望も受け付けます。それから、二つの演習で別々の作品を分析対象にしますので、両方の演習を履修したとしても問題ありません。

以上